

令和6年度第1回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 令和6年12月2日（月）19：00～20：00

◆会場 伊勢市役所本庁舎東館5－3、5－4会議室

◆出席委員

寺 和奈委員、亀谷 崇委員、田尻 優子委員、筒井 琢磨委員、池山 敦委員、
北出 学委員、谷 朋恵委員、河井 英利委員、藤原 寛仁委員、世古 晃文委員、
臼井 直美委員、高橋 勝利委員、富内 伊佐雄委員、東 絵美委員、太田 幸吉委員

◆欠席委員

田中 真理子委員、前田 敦子委員

◆出席職員

企画調整課長、同課副参事、同課主査、広報広聴課長、市民交流課長、健康課副参事、
福祉総合支援センター副参事、子育て応援課長、こども発達支援室長、
産業観光部参事兼商工労政課長、商工労政課副参事、農林水産課副参事、観光誘客課長、
観光振興課長、都市整備部次長兼監理課長、交通政策課長、教育委員会事務局参事兼社会教育課長、
スポーツ課長、教育研究所長

◆議事概要

※以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

1 第3次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン各取組の進捗について

(1) 資料1に基づき、第3次共生ビジョンの進捗状況（令和6年9月末時点）について説明

- ・取組の実績（成果指標）の進捗状況を「A：達成の見込み」「B：未達成の見込みだが、一定の進捗あり」「C：未達成の見込み」の3段階で評価。
- ・成果指標の進捗状況に係る現況や、取組全体の課題・今後の方向性等について、「現況及び今後の方向性」に記載。
- ・「現状と課題」等の内容について、必要に応じて見直し。

(2) 委員意見・質問

- ・「圏域内外への地域情報等の情報発信」について、圏域外への情報発信はどのように行っているか。
→ホームページやSNSを活用して情報発信している。
- ・「地産地消の推進及び地場産品のPR」について、各取組の実施により消費拡大につながっているか。
→「消費」の拡大については測ることが難しいが、産直イベント等の連携取組を着実に進めている。
- ・「自転車を活用したまちづくり」について、御幸道路において、自転車専用スペース等を設けることは考えているか。また、自動運転バスの実証実験について、今後の見通しは。
→自転車専用道路の設置については、幅員や法定速度等の道路状況によって異なる。現状

は、路面標示などの視覚的な分離が現実的である。

自動運転の実証実験については、観光協会が中心となるコンソーシアム（伊勢市含む）が国の補助を受けて実施している。全国的な流れを見ながら、進めていきたい。

- ・「出会い・結婚に関する情報提供等」について、成果指標の「婚活イベント情報提供件数」は、県や民間事業者のイベントの実施の状況に影響を受けやすい指標である。目標指標はこのままとするのか。

→県内のイベント情報を集約して発信しており、必要としている方に情報を届けたいという思いで設定したものである。今後の進行管理において、指標の変更も含め検討していきたい。

- ・「職員研修の合同開催」について、研修のテーマによっては大学として協力できる部分があるのではないか。

→大学との連携をお願いしたい部分があれば、相談させていただきたい。

2 既存取組への新規参画について

- （1）資料2に基づき、既存取組「休日夜間応急診療所の維持運営」への南伊勢町の参画（歯科のみ）について説明

- （2）委員意見・質問

なし

3 圏域の現状と課題（懇談）

- ・医師会においてもデジタル化を進めている。診療報酬のオンライン請求について、一部未対応の部分について要望をしているところである。
- ・介護人材の確保が大変厳しい状況である。令和6年度の報酬改定では、訪問介護ヘルパーについてはマイナス2%となった。国の介護人材確保対策として、処遇改善加算の加算率アップなどの話もあるが、要件も厳しくなっている。
- ・大学において、地域連携の取組を始めて10年目を迎えた。人口減少・少子化により学生の確保が厳しくなっているが、この地域で若者を育てていくことに今後も取り組んでいく。また、行政とともに、伊勢志摩の地域課題解決に向けて、地域おこし協力隊員、集落支援員などと連携した教育プログラムの開発を進めており、令和8年度から開始する予定である。
- ・創業支援補助金の審査員を務めている。審査の中で、創業への思い等に触れ、感心するところがある。今後も創業者への支援に係る取組を継続していただきたい。
- ・DMOとして、伊勢志摩地域の関係機関と役割分担をしながら連携して取組を進めている。また、伊勢志摩観光コンベンション機構においても、地域一体での取組を進めている。
- ・災害対策については全国的な課題であるものの、どこでも画期的な解決策はないのが現状である。一方で、ICTの技術が進んで来ていることから、良い事例等があれば情報提供をお願いするとともに、二人三脚で進められることがあれば連携をしていきたい。
- ・熊野古道世界遺産登録20周年記念のラッピングを施した熊野古道アクセスバスの運行を開始し、駅からのアクセス改善に取り組んでいる。
- ・圏域の8つの観光協会では情報交換等を行っている。自転車の取組について、観光においても注目

されている。特にインバウンドの呼び込みに効果は大きい。伊勢志摩観光コンベンション機構での取組につながると面白いのでは。

- ・志摩市においても、若い世代の流出により、古くから続くお祭りやイベント等をどうしていくかが課題となっている。また、事業継承の課題もあり、小規模事業者が減少している。
- ・玉城町においても、創業セミナーへの参加者をいかに創業に繋げていくかが課題である。お試し期間を設けたり、空き店舗を改装して補助を出すなどの取り組みにより、1件でも多くの創業に繋げるよう取り組んでいる。
- ・度会町でも、物価高騰の影響により、特に飲食や小売業は厳しい状況である。事業所経営プラットフォームの登録などにおいて、マッチングに取り組みたい。
- ・茶、米ともに、担い手不足から農地荒廃につながっている。
- ・町内の風力発電では3万世帯分、ソーラーパークでは2万7千世帯分の発電をしている。また、度会町を含む6町が環境省の「脱炭素先行地域」に選定され、木質バイオマス発電設備を29年度までに導入予定である。人口減少、高齢化が進むとともに、山林が多くを占めるまちであることから、発電業が新たな産業となっていくのではないかと考えている。
- ・ふるさと納税について、R1年度1,000万からR5年度8,000万へと伸びている。伸びた要因として、返礼品の電気料金がある。
- ・大紀町においては、商工会と観光協会が連携し、取り組みを実施している。町内に農林漁業体験民宿が20件ほどあり、インバウンドの受け入れをしている。
- ・地域の資源を活かした体験型観光のメニューを60~70種類程準備しており、民泊とも連携して取り組んでいる。
- ・廃業も多いが創業も増えており、全体の数は大きく減少していない状況である。特に錦地区においての創業や若い方の移住が増えており、勢いがある。
- ・花屋を経営しているが、コロナ禍で冠婚葬祭の在り方が大きく変わり影響を受けた。地域の方に必要とされる事業も考えていく。
- ・サニーロードが6月に崩落し、現在も整備中である。しっかりとメンテナンスしていくことが重要である。
- ・新しいお店が増えていくことでまちの幸福度、まちの価値が向上していくことから、創業支援の取組の継続を。
- ・来年度に「全国豊かな海づくり大会」が志摩市・南伊勢町で開催される。伊勢志摩地域一体でPRに取り組み、魅力を発信していけたら。
- ・行政においても人員の確保が困難となっている。また、人員不足を克服するためDXに取り組んでいる。
- ・地域活性化について、皇学館大学の新しいプログラムにおいても連携していきたい。